

## 公民的分野作品法による評価

東京都銀座中学校 仲村秀樹

### 1. 作品法による評価のポイント

公民的分野の学習活動による作品としては、いろいろなものが考えられる。例えば、学習活動時に記録したワークシート、ディベートなどの話し合い学習時に記録した記録シート、学習内容ごとのまとめりで作成したレポートなどがあげられる。このそれぞれについて学習の評価を行っているが、評価を行う際に考慮しなければならないことは、「目標、指導、評価の一体化をめざさなければならない」ということである。

公民的分野の目標は「国民権を担う公民として必要な基礎的教養を培う」ことにある。しかしながら、これまでややもするとこの目標を見失ったかのような評価、評定がなされてきたきらいがある。「公民として必要な基礎的教養」の内容には、社会的事象に対する知識・理解のみではなく、社会的事象に対する興味・関心やこれについての公正な判断力、さまざまな資料を活用し、わかったことを自分以外の他者にわかりやすく表現することなどが含まれている。そこで、作品の一つであるレポートを例に具体的な評価方法の事例を考えてみたい。

### 2. 作品法の一つのレポート評価事例

課題解決学習を行う際、もっとも重要なポイントの一つとして課題の設定があげられる。課題設定が明確ならば後の調査追究学習はスムーズに進行するものである。

たとえば、地方自治の学習では、「地方自治の基本的な考え方やその仕組みについて理解させ、住民の権利、義務と関連させ、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる」ことを目標としている。

そこで、地域社会におけるさまざまな問題の解決策を追究する課題解決学習を行った。この学習のまとめとして「地域の課題を解決しよう」をテーマにまとめのレポートを作成させた。ここで「ごみの不法投棄問題」をテーマにレポートを作成し

たBさんは

前々から少し興味があり、調べてみたかったから、問題になっているから、ゴミの不法投棄問題を調べることにしました。

と「課題設定の理由」で述べて課題追究を行い、その結果、自分の意見を



意見でなく、たんなる感想を書いて終わってしまうレポートもあるので、感想でなく、意見を明記するように十分指導する必要がある。

不法投棄をなくすには三つの方法があると思います。

- ①無駄なものは、絶対に買わない
- ②不法投棄をよく認識すること。
- ③不法投棄の場所を見に行くこと。

みんなが少し心がけるだけで不法投棄を防止できると思います。不法投棄を防ぐために必要なことは、自分自身の心がけしだいです。

とまとめている。

確かに、「不法投棄問題」を自らの問題ととらえ、自分の生き方と関わらせて解決策を考えてはいるが、解決策を考える視点が一面的であり狭い範囲でしか考えられていない。

そこで、Bさんには、次の2点を支援する必要がある。



レポートにまとめ、提出させて終わりにしまいがちで、これでは、「地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治」のための自治意識の基礎を育てることにならない。

- ①個人の問題と社会の問題の視点の違い  
(個人で取り組まなければならない課題だけでなく、地域社会全体で取り組まなけれ

ばこの問題の解決はないことに気づかさせる必要がある。)

## ②多角的な問題の検討

(不法投棄問題のこれまでの歩みやこの問題の他の道府県や市町村の取り組み、さらには、国の規模、そして、他の国ではどうなのかなど国際的な視野から考えることの必要性。)

その結果、Bさんは、再度調査を行い、次のようなレポートを再度提出してくれた。



はじめのレポートですでに「不法投棄を防ぐために必要なことは、自分自身の心がけしだいです。」としているBさんなので、この問題に対する興味・関心が充分あるため、再調査に応じてくれたと考える。

不法投棄を容易にしてしまう環境を私たちが作っているかもしれないと、このレポートを作成していて思いました。また、行政の動きも少しピントがずれている気がします。ただ罰則を強化するだけでは問題の解決にはならないと考えます。そして、行政だけに頼らないように地域の人が頑張っていかなければならないと考えます。

まだ、前述の指摘に十分に答えたものにはなっていないが、「個人と社会」の視点、「多角的な問題の検討」が少しはなされるようになったと考える。

このような学習指導を積み上げることで、「社会的事象に対する知識・理解のみでない社会的事象に対する興味・関心、さまざまな資料を活用したうえで公正な判断力」の育成を行うことができると考える。また、レポート作成は、自らの考えを自分以外の他者に伝える表現方法の一つであるので、レポート作成技術を向上させることも大切である。

### 3. レポート作成技術の向上

レポート作成技術の向上のためには、まず、読み手に読んでみようという気にさせる。さらに、読み手が読みやすく、わかりやすい工夫をしなけ

ればならない。そのためには、以下の点に留意するよう指導する必要がある。

- ①表紙をつける
- ②目次をつける (ページをふる)
- ③最後に参考文献、引用資料を明記する (文献資料は、著者・発行年を明記、インターネットでダウンロードした資料はHP名、ダウンロードの年月日を明記する)
- ④はじめに「課題設定の理由」を明記する
- ⑤必ず自分の意見を明記する
- ⑥使用した資料を添付する



レポートの提出の際には、必ず自己評価をさせ、また、班などで相互評価をさせている。

このような支援を行うことで、次のような感想をC君が寄せてくれ、少しずつこのような学習する意義を理解する生徒ができていていると考える。

僕は、正直なところレポートをやる意味があるのかな、やらないよりやった方がいいんだけど、でも時間がかかるし、気持ちは乗っていませんでした。でも、やり始めたら知らないことが多く、知ってるつもりなんていうのもありました。(中略)

僕は将来、このダメな日本を何とかしたいと本気で思っている。そういうことを考えると今回のように物事を考えるということはすごい大事なことで、何で先生が躍起になって考えさせて、レポートにこだわるのかわかりました。こういうことがないと、強制されないと忙しいとか言って、やるきっかけがないままいってしまうからです。少し自信ができました。調べたりすればものがわかり、考え、他のことに全部つながっているということがわかります。(中略)

僕は大学生になったらNGOなどでボランティアをしたい。そして、世界を回っているのを見て、視野を広げたいと思っている。受験勉強も大事だけど、それより大事なこともあるな……なんて思いました。